

社会学専攻（修士課程）の3つのポリシー

【教育の理念】

社会学専攻は、人間と社会の幸福を目指すための学問として、社会学と社会福祉学を2本の柱とした専門的な教育を行い、社会の多様性や複雑性を理解する幅広い教養と専門分野の体系的知識を身につけること、問題を発見し専門的な知識に基づいて社会を客観的、科学的に分析し、かつ社会的諸問題の解決に向けて行動できる高度な能力をもった人材育成を行うことを教育の理念とする。

また修士課程の教育を通じ、社会学と社会福祉学の各専門を活かすことのできる様々な分野において、専門職、実践家あるいはリーダーとして、社会に貢献できる高度な人材育成を行うことを目標とし、その役割に求められる高度な能力や知識、技能、態度の修得と向上を目指す。この目標を達成するために、幅広く充実した内容のカリキュラムを置き、少人数でのきめ細かな教育・研究指導を行う。

【修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

社会学専攻修士課程は、教育の理念と目標に基づいて定められた下記の3つの能力を身につけ、所定の期間在学し、専攻の定める所定の単位を修め、かつ、必要な研究指導を受けた上で修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、学位を授与する。

（DP1）専門的知識の習得と社会的諸問題への理解と洞察力・応用力

社会学と社会福祉学の分野における、高度な専門知識や研究方法を修得するとともに、社会的諸問題に対する深い理解、幅広い視点からの柔軟な思考力、および洞察力、応用力を身につける。

（DP2）情報収集や分析に関する専門的知識、技能、分析力の向上

社会のさまざまな現象の中から問題を発見し必要な情報やデータを蒐集することで、科学的、客観的な研究・分析を行う能力を身につける。社会調査法や情報分析に関する高度な知識と技法を身につけ、主体的に研究を行う。

（DP3）問題発見と問題解決能力、実践力、情報発信

社会調査や論文作成、プレゼンテーション、社会参加、社会実践等を通じて、問題や課題を発見し、それを解決するために、専門的な見地から論理的・実証的・客観的に研究や分析を行い、自らの研究成果を社会に発信し、主体的に行動して社会に貢献することができる。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

社会学専攻修士課程では、「修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた3つの能力を養成するため、社会学ならびに社会福祉学の内容の教育課程を提供する。講義科目と演習科目を組み合わせることで、計画的かつ発展的な学修と研究ができるようにする。また社会の変化や最新の学術研究の動向を踏まえて、教育内容は更新される必要があることを自覚し、常に自己点検・評価を行い、不断の改善に努める。具体的には、学位論文の審査基準を明確にし、その評価結果をもとに、教育課程や研究指導を改善していく努力を継続する。

社会学や社会福祉学の専門的学識を専門的職業に活かせるように、多様な教育内容からなるカリキュラムを構成する。本学を含めた社会学分野の大学院間での単位互換制度に参加し、学生の学習機会を拡大している。また研究倫理を遵守し、人権を尊重することができるよう、カリキュラムの中で意識の啓発と教育を行う。教

育内容、教育方法、評価については、下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 社会学と社会福祉学の講義科目を幅広く履修できるよう、専門領域の講義科目を多数設置して、専門的知識を修得するとともに、研究技法の修得ができるよう指導する。
- 2) 演習科目では、専門領域・研究課題に応じて修士論文の作成に必要な緻密な研究指導を受ける。
- 3) 研究課題に必要な科目が本専攻に無い場合は、複数の大学院間で履修可能な「単位互換制度」を利用することで、必要な専門知識を学ぶことができる。
- 4) 1～3の集大成として、修士論文を完成させ、それについての審査と口頭試問を実施する。

2. 教育方法

- 1) アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れた、少人数によるきめ細かい研究指導を行う。
- 2) 大学院受験の段階から研究テーマに合う指導教員を学生が指定して応募することができる。
- 3) 複数の講義科目と1つの演習科目を履修することで、幅広い専門的知識を講義科目で身につけるとともに、研究テーマに沿った綿密な研究指導を演習科目で展開する。
- 4) 演習科目の指導教員を中心に、専門性を追求しつつも、狭い領域だけでなく、社会学や社会福祉学の幅広い科目から自由に選択して履修することで、幅広い教養と人間や社会に対する深い理解を得られるように指導を行う。
- 5) 修士論文の審査は、主査1名と副査2名以上で構成される審査委員会により、公正で厳格な審査が行われる。最終試験は口頭試問で行い、「学位授与の方針」に基づき、必要とされる専門的な学識、研究能力、技能等を身につけていることを詳細に確認し評価する。
- 6) 研究倫理教育は、日本社会学会や日本社会福祉学会等の専門学会での倫理綱領や研究指針に基づいて行われるとともに、研究指導を通じて教員が指導する。
- 7) TA制度への参加を通じて教育現場での指導経験を積み、また院生会学術雑誌『ソキエタス』への論文投稿により研究能力の向上と研究実績を積むよう指導する。

3. 評価

修士課程では、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）の3つのポリシーに基づき、学生の入学時から修了後までの成長を視野に入れ、機関レベル（大学院）、教育課程レベル（人文科学研究科社会学専攻）、および各科目（個々の科目）の3段階のレベルで、学修成果の評価・測定を行う。

4. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎:特に重点を置いている ○:重点を置いている

授業科目等	履修単位	配当学年	DP1	DP2	DP3	各科目等のねらい
講義科目	4	1・2	◎	◎		専門分野の知識及び情報収集・調査・分析などの研究活動に必要な知識や方法について体系的に身につける。
演習科目	4	1・2	○	◎	○	個別の研究テーマに基づき、指導教員のきめ細かい指導を受け、発表や議論を行い、修士論文の作成につなげる。
実習科目	該当科目なし					

修士論文	—	—	○	◎	◎	2年間の学修の集大成として、自ら設定した研究テーマについて修士論文を作成する。
研究倫理教育	—	1	○	◎	◎	研究者として求められる基本的な研究倫理、調査倫理を身につけ、意識して研究活動を行う。

【入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

社会学専攻修士課程では、社会学・社会福祉学の専門的知識に裏打ちされた知的好奇心をもち、広い視野と他者の尊重に基づいて、人間や社会や学問への貢献を目指して主体的に学修や研究活動に取り組む明確な目的意識と熱意を持った入学者を求める。専門分野の基礎学力や社会的経験に基づき、研究や教育、高度な専門職人として活躍する意欲のある人材を求める。

また社会学専攻を希望する受験生を公正かつ適正に選抜するために、多面的な評価基準を用いて、入学者選抜を行う。

1. 求める学生像

- (AP1) 専門分野に関わる知識や技能を幅広く修得し、大学院での学修に必要な基礎学力と問題意識を有している。[知識、理解、技能]
- (AP2) 人間や社会についての問題意識と関心をもち、社会学や社会福祉学の専門的知識や技能を生かして社会に貢献しようとする強い意欲と目的意識をもつ。[意欲・関心・態度]
- (AP3) 人間や社会、福祉に関する諸現象について問題意識をもち、主体的に課題を設定し情報を集め、それらを専門的知識に基づいて科学的かつ多面的に考察する柔軟な思考力をもち、さらに新たな解決策を提案し、情報発信することができる。[思考力・判断力・表現力]
- (AP4) 多様性と複雑性を理解し、他者の人権を尊重しつつ協働することができ、また主体的に責任感をもって問題解決やそのための情報発信をする意欲を持つ。[主体性、多様性、協働性]

2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎:特に重点を置いている ○:重点を置いている

入学試験制度	選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学試験制度のねらい
一般入学試験 (学内推薦入学試験を含む)	出願書類	○	◎	◎		学士課程レベルの基礎的な専門知識があると認められる者に対し、研究に必要な専門知識や語学力を重視した選抜を行う。書類審査、筆記試験、面接試験によって選抜する。筆記試験は記述式で行い、社会学もしくは社会福祉学の専門科目試験と外国語試験の2科目で実施する。面接試験では、専門的知識、研究意欲、研究テーマ内容についての確認を行う。一定水準以上の大学在学時学力であれば、学内推薦入学試験を受験でき、筆記試験の免除がある。
	筆記試験	◎		○	○	
	面接試験	○	◎	◎	◎	
社会人特別入学試験	実施していない					
外国人留学生入学試験	出願書類	○	◎	◎		外国籍を有し、外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は修了見込みの者を対象とする。これ以外にも、一定の条件を満たした受験生を対象として入学選抜を行う。試験では、社会学の専門的知識、研究意欲、研究テーマ内容のほか日本語能力についても確認を行う。
	筆記試験	◎		○	○	
	面接口試	○	◎	◎	◎	